

略歴

橋本 幹彦（はしもと みきひこ）

生年月日	1995 年 12 月 27 日（30 歳）
出身	千葉県八千代市
現職	衆議院議員（2 期）／衆議院安全保障委員会理事／国民民主党政調副会長

政治の原点

奨学金を得て進学、18 歳で政治を志す

高校時代、奨学金を得て県立千葉高校へ進学した。学びたい、努力したいと思っても、経済的な事情によって人生の選択肢が左右される無力感に向き合い、18 歳で「一人ひとりが自分の人生を選べる社会」をつくる政治を志した。

自衛官として見た、使命感だけでは支えられない現場

防衛大学校卒業後、航空自衛官として勤務。現場では、人も部品も足りず、稼働する機体を維持するために別の機体から部品を融通する「共食い整備」に頼る実情に直面した。現場の使命感だけに依存する国家を政治の側から変えたいと考え、自衛隊を退職した。

制度と現場をつなぐ政治へ

経営コンサルティング会社役員として、企業経営と行政制度の間にある距離を経験。制度は正しくても、現場で実行できなければ人を救えないとの思いを強めた。国会では安全保障、インテリジェンス、賃上げ、地方自治、政治改革に取り組んでいる。

主な経歴

2014 年 3 月	千葉県立千葉高等学校卒業
2018 年 3 月	防衛大学校公共政策学科卒業／航空自衛官（3 等空尉）
2019 年 10 月	経営コンサルティング会社役員
2024 年 10 月	第 50 回衆議院議員総選挙・埼玉 13 区で初当選
2026 年 2 月	第 51 回衆議院議員総選挙で 2 期目当選（比例北関東）
主な歴任	衆議院予算委員会委員、内閣委員会委員、国民民主党国会対策副委員長
現在	衆議院安全保障委員会理事、政治倫理審査会幹事、国民民主党政調副会長



手取りを増やす。
その先に、選べる人生を。

国民民主党を、国家像・組織・人材を備えた公党へ。

国民民主党代表選挙 候補者

橋本 幹彦

代表が代わっても、志と能力が残る党へ。

- 防衛大学校卒業／元航空自衛官
- 経営コンサルティング会社役員を経て衆議院議員
- 衆議院安全保障委員会理事／国民民主党政調副会長
- 衆議院政治倫理審査会幹事

三つの目標

1 選べる人生

手取りだけでなく、家族や地域に使える時間、安心して暮らせる場所、挑戦を選べる余力を増やす。

2 続くふるさと

国は権利と財源を保障し、地域は教育、医療、交通、福祉、文化の方法を自ら選ぶ。

3 自立共存する日本

食料、エネルギー、技術、情報、防衛の基盤を整え、自ら判断して世界と協力する。

党を変える三つの改革

1 国家像と政策の全体地図

党の国家観・社会像を明文化し、三年ごとに見直す。政策全体マップで空白と重複を点検する。

2 政策工房と開かれた政調

議員の専門性を尊重し、地方議員、党員、職員、学生、専門家が勉強会と政策形成に参加する。

3 候補者を育てる県連

都道府県連を人材育成の拠点とし、候補者発掘、研修、選挙、当選後まで党が伴走する。

代表就任後 100日以内に着手

- 新しい綱領と 2040 年国家像の策定
- 党本部・県連・人員・財政の総点検
- 候補者・新人議員・党職員の育成制度
- 政策全体マップと政策工房の設置
- 地方議員・党員の政策提案制度

HP



<https://hashimotomikihiko.jp>



@Hashimoto_Mkhk



@hashimotomikihiko

X



Instagram



千年後も続く物語をあなたと共に

政 見

手取りを増やす。その先に、選べる人生を。
国民民主党を、国家像・組織・人材を備えた公党へ。

国民民主党は、玉木代表の発信力と実行力によって、「手取りを増やす」「給料が上がる経済をつくる」という新しい答えを示し、現実の政治を動かしてきました。この成果は、私たち全員の誇りです。

私は、手取りを増やす政治を、手取りだけで終わらせません。所得が増えても、家族と過ごす時間がなく、安心して住める場所を持たず、地域とのつながりを失えば、人生の選択肢は増えないからです。手取りを増やすのは、一人ひとりが自分の人生を選び直せる「余力」を取り戻すためです。

そして、その政策を代表一人の力量にとどめず、国家像、政策形成、組織、人材育成へ定着させる。代表が代わっても志と能力が残る公党へ、国民民主党を進化させるために立候補します。

1 余力のある国へ

余力は、無駄でも、単なる余りでもありません。生活した後にも残る資金。家族や地域、学びや休息に使える時間。安心して暮らせるふるさと。新しい挑戦に踏み出し、いざというときに人を支えられる備え。まだ用途が決まっていない力が手元に残っているからこそ、人は未来を選び、他者と支え合うことができます。

人が未来をつくるのは、余った力によってではない。
未来のために残された力によってである。

私は、三つの余力を国民の手元へ取り戻します。

手取り 食べ、住み、学び、育てた後にも、自分の人生を選ぶために残る所得。

時間 家族、地域、学び、休息、創造のために、自ら配分できる時間。

場所 安心して住み、地域や自然と関わり、離れることも戻ることもでき、望むなら根を張れる場所。

技術と生産性の向上を、人をさらに忙しくするために使ってはなりません。AI や省力化が生む果実を、賃金、労働時間の短縮、住まい、公共サービス、研究開発、地域の備えへ戻す。文明が進むほど、人が自分の時間を取り戻す。人口減少時代の日本を、高生産性・高余力国家へ変えます。

2 三つの目標

個人、ふるさと、日本が、それぞれ自立し、他者と共存し、次の世代へ持続できる国をつくります。

選べる人生－自立する個人

自立とは、何でも一人で背負うことではありません。支え合いの中で、生まれた家庭、病気や障害、暮らす地域に可能性を閉ざされず、自分の生き方を選べることです。政治は人生の筋書きを書くのではなく、何度でも続きを書き始められる足場を整えます。

続くふるさと－自治するふるさと

ふるさとは、出生地ではありません。暮らし、働き、学び、支え合い、次の世代へ手渡したい場所です。国は人権、全国共通の最低保障、財源、安全基準を担い、地域は教育、医療、交通、福祉、文化、土地利用の方法を選ぶ。判断は近く、社会基盤は必要な広さで支えます。地域の試行を検証し、成功も失敗も国家の学びへ変えます。

自立共存する日本

覇権を求めず、他国にも過度に依存せず、自ら判断する力を持って世界と協力します。食料、エネルギー、技術、情報、防衛の基盤を整え、法、文化、教育、防災、平和構築を通じて世界に貢献する。勢力圏の広さではなく、信頼の深さで尊敬される日本をつくります。

世界に先駆けて人口が減り、老いる日本だからこそ、世界に先駆けて新しい豊かさを示せます。

3 国家像を政策へ変える公党

政策は枝、国家像は幹、組織は根です。国民民主党そのものを、目指す日本の縮図にします。

- 1 国家像と政策全体マップ 党の国家観・社会像を明文化し、原則三年ごとに見直します。その下に、社会保障、教育・雇用、地域自治、経済、外交・安全保障を一望する「政策全体マップ」を置き、政策の空白、重複、責任者、進捗を管理します。
- 2 開かれた政務調査会 議員の専門性を尊重し、部会・調査会の責任と裁量のあり方を検討します。党職員が調査、法制、財政試算、データ分析を支え、知識を党に蓄積します。
- 3 党の公式機関「政策工房」 地方議員、党員・サポーター、職員、学生、研究者、企業、労働組合、NPO、現場の専門家が参加する勉強会と意見集約の場を常設し、課題をデータ、異論、副作用、財源、工程を伴う政策へ仕上げます。地方議員を応援要員ではなく、地域の制度矛盾を国家政策へつなぐ政策立案者と位置づけます。
- 4 候補者と新人を育てる県連 都道府県連を候補者発掘と新人育成の拠点とし、擁立前から選挙後まで党本部と県連が伴走します。新人議員には政策、議会、広報、組織運営の研修とメンターを、党職員には専門職として成長する道を整えます。

4 人口減少を、衰退にしない

年金、医療、介護を、人口が増え続けた時代の設計から改めます。長く生きることを衰退と数えず、働く、学ぶ、支える、休むことを本人が選べる社会へ変えます。

教育と雇用をつなぎ、高専、大学、職業教育、学び直しを強化します。人手不足を安い労働力だけで埋めず、賃上げ、AI、省力化、技能への投資へつなげ、職務と専門性が正当に評価される雇用へ移ります。

地域で生まれ、育ち、働き、老いる人生を望む人が選べるよう、地域交通、医療、教育、住まいを生活圏で再設計します。自衛官、海上保安官、警察官、消防、教員、保育士、医療・介護、自治体職員、交通・インフラなど、公を支える人の採用、処遇、訓練、住宅、家族支援、退職後のキャリアを国家戦略として再構築します。

代表就任後 100 日以内に着手すること

- 1 新しい綱領と二〇四〇年国家像の策定を開始する。
- 2 政策全体マップと政策工房を設置する。
- 3 党本部、都道府県連、財政、人員、部会・調査会を総点検する。
- 4 地方議員、党員・サポーターの政策提案制度と党本部の回答手続を整える。
- 5 候補者発掘、新人議員研修、党職員育成を一体化した人材育成制度を始める。

私の政治の原点

私は奨学金を得て高校に通い、努力する意思だけでは人生を選べない無力感を知りました。十八歳で政治を志し、防衛大学校を卒業して航空自衛官となりました。しかし、現場では人も部品も足りず、稼働する機体を維持するため別の機体から部品を融通する「共食い整備」に頼っていました。使命感だけに依存する国家を政治の側から変えたいと考え、自衛隊を退職しました。ビジネスの現場では、中央の制度と地域・企業の現実との距離を知りました。

千年後も続く物語を、あなたと共に。

手取りを増やす。その先に、選べる人生を。

代表が代わっても、志と能力が残る国民民主党をつくります。

代表選挙推薦人名簿

候補者名 橋本 幹彦

No. _____

	国会議員名	(自治体名) 自治体議員名
1	鈴木義弘	(埼玉県久喜市) 速山 武士
2	長友慎治	(宮崎県延岡市) 前田 遼
3	許斐亮太郎	(福岡県太宰府市) 岡林 直人
4	西岡義高	(神奈川県藤沢市) 須田一行
5	臼木秀剛	(滋賀県大津市) 日隈 慈
6	小竹凱	(石川県加賀市) 福永哲也
7	江原久美子	(滋賀県甲賀市) 若狭 健太
8	籠島彰宏	(神奈川県逗子市) 富田 剛平
9		
10		